

国際法学会 2023 年度研究大会公募報告への応募を検討しておられる会員のみなさまへ

2023 年 1 月 11 日

研究企画委員会

2023 年度研究大会の第 1 日・第 2 日は以下のように構成される予定です。報告タイトルはいずれも仮題であって変更の余地はありますが、根幹部分が変わることはありません。

応募される際は、これら報告テーマとの重複を避けてくださいますよう、お願い申し上げます。重複の可能性につき懸念がある場合、事前に研究企画委員長までご照会ください。

研究企画委員長 濱本正太郎 hamamoto*law.kyoto-u.ac.jp

(*を@に置き換えてください。)

第 1 日午後の部	「国際法に『違反』するとはどういうことか」	
個別報告 1	ロシアによる武力行使に対する各国の評価の意義	森肇志
個別報告 2	上級委員会なき現在、WTO 法に「違反」するとはどういうことを意味するのか	福永有夏
個別報告 3	司法判断・仲裁判断に従わない実行の評価	李禎之
個別報告 4	「国際法の法的性質」論争再訪——司法化・「違反」認定の客観化の後	郭舜
第 2 日午前の部	「国家管轄権論における『違反』とは」	
個別報告 5	国家管轄権論における「主義」の国際法上の意義——「国家管轄権規則への違反」は観念できるか	古谷修一
個別報告 6	経済制裁と「域外適用」	吉村祥子
個別報告 7	海洋法における管轄権論再考	小島千枝
第 2 日午後の部		
第 1 分科会	「『違反』の効果」	
分科会個別報告 1	金融規制（バーゼル規則）の「違反」	森下哲朗
分科会個別報告 2	知的財産保護規制における「違反」	申美穂
分科会個別報告 3	海洋法における私的基準の「違反」	中村秀之

分科会個別報告 4	地球環境保護関連条約における「違反」	山田高敬
第2分科会	『違反』を回避する法は機能するか	
分科会個別報告 5	環境法における不遵守制度の stock-taking	繁田泰宏
分科会個別報告 6	目標設定手法（SDGs など）の実効性	小川裕子
分科会個別報告 7	Legitimacy-talk は何を生んだか 「正統性に欠ける」ことの意味	望月康恵
分科会個別報告 8	調停が機能する条件	玉田大
	コメント（5分）	高杉直
第3分科会	「国際刑事法における『違反』」	
分科会個別報告 9	中核犯罪実行者は「国際法に違反」したのか、そうだとするといかなる意味において？	坂本一也
分科会個別報告 10	「ジェノサイド罪」「ジェノサイド防止義務」は誰のどのような利益を守っているのか	稲角光恵
分科会個別報告 11	（ジェノサイド罪を除く）中核犯罪の被害者とは誰か	マンズフィールド デビッド宥雅
分科会個別報告 12	ICC 規程上の犯罪の国内犯罪化と ICC 規程の「違反」	洪恵子